

平成28年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成28年2月15日

上場会社名 株式会社サハダイヤモンド
 コード番号 9898 URL <http://www.sakha.co.jp/>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 姜 杰
 問合せ先責任者 (役職名) 代表取締役副社長 (氏名) 井上 喜明

TEL 03-3846-2061

四半期報告書提出予定日 平成28年2月15日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成28年3月期第3四半期の連結業績(平成27年4月1日～平成27年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
28年3月期第3四半期	2,973	20.7	△218	—	△201	—	△181	—
27年3月期第3四半期	2,464	△14.4	△144	—	△112	—	△136	—

(注) 包括利益 28年3月期第3四半期 △479百万円 (—%) 27年3月期第3四半期 △413百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
28年3月期第3四半期	△0.54	—
27年3月期第3四半期	△0.41	—

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円	%	百万円	%	円 銭	円 銭		
28年3月期第3四半期	2,595	46.0	2,039	38.0	3.58	4.57		
27年3月期	4,005	—	2,519	—	—	—		

(参考) 自己資本 28年3月期第3四半期 1,192百万円 27年3月期 1,523百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
27年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
28年3月期	—	0.00	—	—	—
28年3月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成28年3月期の連結業績予想(平成27年4月1日～平成28年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	3,344	3.5	△252	—	△251	—	△225	—	△0.68

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	28年3月期3Q	333,172,137 株	27年3月期	333,172,137 株
② 期末自己株式数	28年3月期3Q	30,459 株	27年3月期	28,449 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	28年3月期3Q	333,142,500 株	27年3月期3Q	333,145,131 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期報告書のレビュー手続の対象外ですが、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期報告書のレビュー手続は終了しております。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に掲載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因より大きく異なる可能性があります。業績予想に関する事項については、添付資料のP.2「1.当四半期決算に関する定性的情報(2)連結業績予想などの将来予測に関する説明を」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	2
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3. 継続企業の前提に関する重要事象等	3
4. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境の着実な改善が続き、個人消費も全体としては底堅く推移するなど、緩やかな回復基調を続けており、先行きとしても国内需要が堅調に推移し、輸出も穏やかに増加しております。当社グループの属する宝飾業界においては消費マインドの改善が期待されております。

海外子会社維真珠宝(上海)有限公司は、イタリアブランドの「FRANCO ELLI」をメインとした高額商品を揃え、第11号店まで店舗展開し、卸販売も積極的に行っております。

しかしながら、小売販売及び卸販売に関しましても消費が冷え込んでおりますが、中国では旧正月があり第4四半期以降からは改善される見込みであります。

子会社株式会社バージンダイヤモンドが展開するダイヤモンド事業では、エンゲージリング及びマリッジリングをメインとした「Virgindiamond」及び楽天市場の「ザ・ベストサプライズ」のインターネット販売に加え、ブライダルジュエリー及び高額品の販売を行っておりますが、店舗販売を予約制としたことから、低迷しておりますがブライダルジュエリー及び高額品販売に積極的な販売に取り組んでまいります。

海外子会社公開型株式会社サハダイヤモンド(ロシア)は、自社研磨による原石加工販売を行っておりますが、第2四半期までは受注が順調にあったものの、第3四半期以降はダイヤモンドの相場が下落し、受注が激減しており、工場の稼働率が低下している状況であります。

また、不動産賃貸事業(本社ビルテナント貸出等)の業績は、全室貸し出しが達成していない状況及び修繕費等経費の増加がありました。

この結果、当第3四半期連結累計期間業績の売上高は2,973百万円(前年同期比20.7%増)、営業損失は218百万円(前年同期は営業損失144百万円)、経常損失は201百万円(前年同期は経常損失112百万円)、親会社株主に帰属する四半期純損失181百万円(前年同期は親会社株主に帰属する四半期純損失136百万円)となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

(海外事業)

中国における事業では卸販売は伸び、売上高は991百万円(前年同期比25.5%増)、セグメント損失96百万円(前年同期はセグメント利益26百万円)となりました。

(ダイヤモンド事業)

日本におけるダイヤモンド事業では、売上高は30百万円(前年同期比78.5%減)、セグメント損失は20百万円(前年同期はセグメント損失19百万円)となりました。

(ダイヤモンド研磨事業)

当社の海外子会社公開型株式会社サハダイヤモンド(ロシア)の売上高は1,884百万円(前年同期比29.3%増)、セグメント利益は14百万円(前年同期はセグメント損失46百万円)となりました。

(不動産賃貸事業)

不動産賃貸事業(本社ビルのテナント貸出等)の売上高は67百万円(前年同期比9.9%減)、セグメント利益は5百万円(前年同期はセグメント利益7百万円)となりました。

(2) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社は、直近の業績の動向等を踏まえ、平成27年12月14日付公表の「通期の連結業績予想の修正に関するお知らせ」の中で平成27年5月20日付公表の平成28年3月期通期連結業績予想(平成27年4月1日～平成28年3月31日)を未定としておりました。平成28年1月22日付公表の「通期の連結業績予想の修正に関するお知らせ」のとおり、姜社長の新体制の下で事業計画を協議した結果、今期の業績予想を修正いたしました。なお、上記の予想は、当社が現時点で把握可能な情報から判断する一定の前提に基づいた見込みであり、多分に不確定予想を含んでおります。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(企業結合に関する会計基準等の適用)

「企業結合に関する会計基準」（企業会計基準第21号 平成25年9月13日）、「連結財務諸表に関する会計基準」（企業会計基準第22号 平成25年9月13日）及び「事業分離等に関する会計基準」（企業会計基準第7号 平成25年9月13日）等を第1四半期連結会計期間から適用し、四半期純利益等の表示の変更及び少数株主持分から非支配株主持分への表示の変更を行っております。当該表示の変更を反映させるため、前第3四半期連結累計期間及び前連結会計年度については、四半期連結財務諸表及び連結財務諸表の組替えを行っております。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等

当社グループは、前連結会計年度において187百万円の親会社株主に帰属する当期純損失を計上し、平成16年3月期より継続的な営業損失を計上しております。

これにより、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような状況が存在しております。

四半期連結財務諸表提出会社である当社グループは、当該状況を解消するべく事業計画に沿って、引き続き収益体質の改善を図るための対応策を講じてまいります。

コストダウン施策の実施及び強化につきましては、利益率の改善を図るべく、徹底した商品コストの見直しによる原価の削減、その他経費全般についての見直しを行い改善してまいります。

また、当社の海外子会社維真珠宝（上海）有限公司のさらなる店舗展開及び集客を強化するとともに、卸販売も積極的にまいります。

加えて、当社の子会社バージンダイヤモンドは、インターネットによるブライダルジュエリーの販売及びバージンダイヤモンド・ショールームに高額品の販売ができるよう集客してまいります。

なお、ダイヤモンド研磨事業の大幅な技術の向上とコストダウンを図り、生産力と販売力を改善いたします。

当社が財務内容を改善してゆく方策としては、当社グループの主要各事業（海外事業、ダイヤモンド事業、ダイヤモンド研磨事業、不動産賃貸事業、トレーディング事業）の営業収益の拡大を重視しており、目標を達成できるよう慎重且つ大胆に各事業の収益体質改善に注力してまいります。

しかしながら、当社グループが属する宝飾品業界は価格競争により企業業績に関する不透明な状況があります。

また、十分な資金確保が安定しないことから、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められます。

なお、四半期連結財務諸表は継続企業を前提として作成しており、継続企業の前提に関する重要な不確実性の影響を四半期連結財務諸表には反映しておりません。

4. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成27年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	164	149
受取手形及び売掛金	517	666
たな卸資産	1,820	693
その他	303	111
貸倒引当金	△1	△12
流動資産合計	2,804	1,609
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	1,193	1,014
減価償却累計額	△136	△153
建物及び構築物(純額)	1,056	861
土地	105	95
その他	90	81
減価償却累計額	△58	△58
その他(純額)	32	22
有形固定資産合計	1,194	979
無形固定資産		
その他	0	0
無形固定資産合計	0	0
投資その他の資産		
投資有価証券	0	0
固定化営業債権	311	310
その他	7	7
貸倒引当金	△313	△312
投資その他の資産合計	6	5
固定資産合計	1,201	985
資産合計	4,005	2,595

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成27年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2	202
短期借入金	316	309
未払法人税等	3	0
前受金	1,113	7
その他	42	22
流動負債合計	1,478	542
固定負債		
長期末払金	—	6
その他	7	6
固定負債合計	7	12
負債合計	1,485	555
純資産の部		
株主資本		
資本金	100	100
資本剰余金	2,040	2,040
利益剰余金	△522	△703
自己株式	△2	△2
株主資本合計	1,615	1,433
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	△91	△241
その他の包括利益累計額合計	△91	△241
非支配株主持分	995	847
純資産合計	2,519	2,039
負債純資産合計	4,005	2,595

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)
売上高	2,464	2,973
売上原価	2,349	2,927
売上総利益	114	46
販売費及び一般管理費	258	264
営業損失(△)	△144	△218
営業外収益		
受取利息	2	1
為替差益	38	30
貸倒引当金戻入益	4	0
その他	4	0
営業外収益合計	50	32
営業外費用		
支払利息	17	15
その他	0	0
営業外費用合計	18	15
経常損失(△)	△112	△201
税金等調整前四半期純損失(△)	△112	△201
法人税、住民税及び事業税	4	3
法人税等合計	4	3
四半期純損失(△)	△117	△205
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	19	△24
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△136	△181

(四半期連結包括利益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日)
四半期純損失(△)	△117	△205
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	△295	△274
その他の包括利益合計	△295	△274
四半期包括利益	△413	△479
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△306	△331
非支配株主に係る四半期包括利益	△106	△148

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

当社グループは、前連結会計年度において187百万円の親会社株主に帰属する当期純損失を計上し、平成16年3月期より継続的な営業損失を計上しており、キャッシュ・フロー面でも、営業活動によるキャッシュ・フローのマイナスが続いております。また、当第3四半期連結累計期間においても、218百万円の営業損失、181百万円の親会社株主に帰属する四半期純損失を計上しております。これらにより、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような状況が存在しております。

当社グループは、当該状況を解消するため、当社グループの事業計画を着実に実行し、海外事業、ダイヤモンド事業、ダイヤモンド研磨事業、不動産賃貸事業の収益力の改善に注力するとともに、コストダウン施策の実施、経費全般の見直しを継続して実施してまいります。更に、新たな資金調達を模索・検討し、収益体質の改善を図るための新たな対応策も検討してまいります。

しかしながら、当社グループの計画は、当社グループが属する宝飾品業界の価格競争やダイヤモンドの国際的な相場変動、経済状況の変動などの悪影響を受け、計画が予定通り進まない可能性もあります。このため、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められます。

なお、四半期連結財務諸表は継続企業を前提として作成しており、継続企業の前提に関する重要な不確実性の影響を四半期連結財務諸表には反映しておりません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					合計
	海外事業	ダイヤモンド 事業	ダイヤモンド 研磨事業	不動産賃 貸事業	トレーディン グ事業	
売上高						
外部顧客への売上高	790	141	1,457	74	—	2,464
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	2	—	2
計	790	141	1,457	77	—	2,466
セグメント利益又は損失(△)	26	△19	△46	7	△0	△32

2. 報告セグメントの合計額と連結財務諸表計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	△32
セグメント間取引消去	0
全社費用(注)	△113
四半期連結損益計算書の営業損失	△144

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

II 当第3四半期連結累計期間(自平成27年4月1日至平成27年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					合計
	海外事業	ダイヤモンド 事業	ダイヤモンド 研磨事業	不動産賃 貸事業	トレーディン グ事業	
売上高						
外部顧客への売上高	991	30	1,884	67	—	2,973
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	1	—	1
計	991	30	1,884	69	—	2,975
セグメント利益又は損失(△)	△96	△20	14	5	△2	△99

2. 報告セグメントの合計額と連結財務諸表計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	△99
セグメント間取引消去	0
全社費用(注)	△120
四半期連結損益計算書の営業損失	△218

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。